

# 東京大学大学院人文社会系研究科附属 北海文化研究常呂実習施設 平成26(2014)年度の活動記録

## (1) 活動の概要

平成26(2014)年度における本施設の主要な動向としては、文学部夏期特別プログラムの開講があげられよう。このプログラムは、人文社会系研究科・文学部が英・セインズベリー日本藝術研究所と連携し、文学部の学部学生とセインズベリー日本藝術研究所が募る欧米からの学部学生が、異なる価値観に触れながら日本の歴史文化遺産を体験的に学ぶ機会を提供するもので、開講初年度となる本年度は7月30日から8月13日までの2週間、本郷キャンパスと常呂実習施設で開催された。常呂でのプログラムは8月6日から13日まで行われ、当施設の教員と松田陽担当講師(イーストアングリア大学准教授)が中心となって北見市大島2遺跡の発掘体験や博物館見学などを実施した。本プログラムは来年度以降も継続して実施する予定である。ほかに、本学が企画募集する「体験活動プログラム」に対して「北海道の遺跡博物館における学芸員体験」のプログラムを提供し、9月16日から9月19日までの4日間、本学の学部学生を対象に展示室の模擬解説や勾玉製作体験などを実施した。実習施設がこのプログラムに参加したのは本年度が初めてであり、来年度も継続して実施の予定である。

以下、項目別に平成26(2014)年度における本施設の活動の概要を記す。

研究活動に関しては以下の研究助成を受けた。熊木が研究代表者となったのは、科学研究費助成事業基盤研究(B)「擦文文化期における環オホーツク海地域の交流と社会変動」(平成23(2011)年度～平成27(2015)年度を予定)である。また、國木田が研究代表者となって科学研究費助成事業若手研究(B)「環日本海地域における文化集団の食性変遷に関する研究」(平成23(2011)年度～平成26(2014)年度を予定)の助成を受けた。これらの課題の研究計画を軸として、北海道・東京などで調査研究を実施した。

ほかに、考古学研究室の大貫静夫教授を代表とする科学研究費助成事業基盤研究(A)「環日本海北回廊の考古学的研究」(平成23(2011)年度～平成27(2015)年度を予定)に熊木・國木田が連携研究者として加わった。この課題ではサハリンなどで調査研究を実施している。また、大貫静夫教授を代表とする日本学術振興会の国間交流事業 オープンパートナーシップ共同研究「サハリン・北海道間における先史時代文化交流の解明のためのワークショップ」(平成25(2013)年度～平成24(2014)年度)に熊木・國木田がメンバーとして加わり、サハリンで開催されたワークショップに参加した。さらに、科学研究費助成事業若手研究(A)「日本列島北辺域における新石器／縄文化のプロセスに関する考古学的研究(研究代表者:福田正宏 東京大学准教授、平成25(2013)年度～平成27(2015)年度を予定)に施設として協力し、研究成果報告書『日本列島北辺域における新石器／縄文化のプロセスに関する考古学的研究』(2015年)を新領域創成科学研究科と共同で刊行している。

実習施設と北見市教育委員会が共同し、1999年度～2009年度にかけて発掘調査をおこなってきたトコロチャシ跡遺跡群については、本年度に調査報告書(『トコロチャシ跡遺跡群(史跡常呂遺跡)整備に伴う発掘調査報告書』)を刊行し、同遺跡群(史跡常呂遺跡)の史跡整備計画の基礎となる考古学的な情報

を総括した。北見市が推進している史跡常呂遺跡の整備事業に対しては、今後も施設として全面的に協力してゆく予定である。

夏の発掘調査実習である「野外考古学Ⅱ」では、平成22(2010)年度より継続調査中の北見市大島2遺跡について発掘調査を実施した。本年度は本学の学生・大学院生に加えて、イーストアングリア大学の大学院生2名が参加している。大島2遺跡は来年度以降も調査を継続する予定である。

博物館学実習Aでは実習課題として常呂資料陳列館の企画展を制作しているが、その成果である第4回の企画展「異文化の接触と融合 -トビニタイ文化」を、平成26(2014)年11月から12月にかけて開催している。ほかにも同実習Aでは、北見市が管轄するところ遺跡の森の遺構露出展示を補修するなど、これまでと同様に地域と連携したプログラムを実施している。

## (2) 実習

### 博物館学実習A

開講期間	平成26年7月21日～7月29日(7月30日解散)
実習内容	常呂資料陳列館第4回企画展「異文化の接触と融合 -トビニタイ文化」制作・北見市ところ遺跡の森3号遺構露出展示(擦文文化)の補修作業・資料陳列館展示替え・近隣の博物館巡検など
受講者等	学部生9名・大学院生2名・TA(大学院生)1名

### 野外考古学Ⅱ

開講期間	平成26年8月20日～9月4日
調査遺跡	北見市大島2遺跡 3号竪穴発掘調査
受講者等	学部生6名・大学院生5名(TAを含む)・研究生1名・当施設教員2名・考古学研究室教員2名・新領域創成科学研究科教員1名・イーストアングリア大学大学院生2名・北見市教育委員会2名・その他研究者等13名・発掘体験講座参加者6名

### 博物館学実習B

開講期間	平成26年9月5日～9月13日(9月14日解散)
実習内容	資料陳列館展示替え・考古資料整理の方法・近隣の博物館巡検など
受講者等	学部生6名・大学院生(TAを含む)5名

## (3) 特別プログラムなど

### 文学部夏期特別プログラム

開講期間	平成26年8月6日～8月13日 (東京の部を含めた全体期間:7月30日～8月13日)
担当講師	熊木俊朗 松田 陽(イーストアングリア大学 世界美術・博物館学科准教授)
プログラム内容	北見市大島2遺跡3号竪穴発掘体験・勾玉製作体験・土器接合体験・近隣

の遺跡・博物館巡検・グループディスカッションなど  
受講者等 東京大学学部学生 5 名、セインズベリー日本藝術研究所の公募学生 4 名、  
東京大学大学院生 (TA) 2 名、人文社会系研究科助教 1 名、東京大学文学  
部事務職員 3 名

#### 東京大学体験活動プログラム「北海道の遺跡博物館における学芸員体験」

開講期間 平成 26 年 9 月 16 日～9 月 19 日  
実習内容 北見市ところ遺跡の館での展示解説実習、勾玉製作体験、土器製作体験、  
考古資料の整理実習、近隣の遺跡・博物館巡検など  
受講者等 東京大学学部学生 6 名

#### (4) 調査研究活動

##### ①研究助成金 (下線は当施設教員、以下同じ)

###### (当施設教員が代表者・分担者となった課題)

平成 26 年度 科学研究費助成事業 基盤研究(B) (平成 23～27 年度を予定)

「擦文文化期における環オホーツク海地域の交流と社会変動」(課題番号: 23320166)

研究代表者: 熊木俊朗 連携研究者: 大貫静夫、佐藤宏之、設楽博己、國木田大

平成 26 年度 科学研究費助成事業 若手研究 (B) (平成 23～26 年度)

「環日本海地域における文化集団の食性変遷に関する研究」(課題番号: 23720379)

研究代表者: 國木田大

平成 26 年度 科学研究費助成事業 基盤研究 (B) (平成 25～27 年度を予定)

「マリタ遺跡のヴィーナス像に関する年代研究」(課題番号: 25300037)

研究代表者: 吉田邦夫 研究分担者: 佐藤孝雄、加藤博文、増田隆一、國木田大

###### (当施設教員が連携研究者等で協力した課題)

平成 26 年度 科学研究費助成事業 基盤研究 (A) (平成 23～27 年度を予定)

「環日本海北回廊の考古学的研究」(課題番号: 23251014)

研究代表者: 大貫静夫 連携研究者: 佐藤宏之、熊木俊朗、國木田大、吉田邦夫、福田正宏

平成 26 年度 科学研究費助成事業 若手研究 (A) (平成 25～27 年度を予定)

「日本列島北辺域における新石器／縄文化のプロセスに関する考古学的研究」

(課題番号: 25704014)

研究代表者: 福田正宏 (熊木俊朗、國木田大が研究協力者で参加)

平成 26 年度 日本学術振興会二国間交流事業 オープンパートナーシップ共同研究

(平成 25～26 年度を予定)

「サハリン・北海道間における先史時代文化交流の解明のためのワークショップ」

共同研究代表者: 大貫静夫・A. A. Vasilevskii (サハリン国立大学) (熊木俊朗、國木田大がワークショップに参加)

## ②主な調査

ロシア連邦サハリン州 アド・ティモボ遺跡群 遺跡分布調査 (サハリン国立大学との共同調査)

調査期間：平成26年6月25日～7月9日

参加者 (日本側)：大貫静夫・佐藤宏之・福田正宏・熊木俊朗・國木田大・内田和典・森先一貴・役重みゆき・夏木大吾・山下優介

北見市大島2遺跡 発掘調査

調査期間等：前掲 (野外考古学Ⅱの項) のとおり

ロシア連邦サハリン州 アド・ティモボ遺跡群 遺物整理作業 及び国際ワークショップ (於：サハリン国立大学)

調査期間：平成27年1月14日～1月17日

参加者 (日本側)：福田正宏・熊木俊朗・國木田大・夏木大吾

## ③教員による発表論文等

(熊木関連分)

・著書・論文・調査報告等

2014年5月 榊田朋広・熊木俊朗「特集 2013年の考古学会の動向 北海道 続縄文・擦文・オホーツク以降」『考古学ジャーナル』No.656、ニューサイエンス社、142-145頁。

2014年6月 熊木俊朗「オホーツク文化と周辺諸文化の交流」『歴史と地理』第675号 (日本史の研究 (245))、山川出版社、1-14頁。

2014年7月 熊木俊朗「続縄文・擦文文化の代表的遺跡」菊池徹夫・宇田川洋編『オホーツク海沿岸の遺跡とアイヌ文化』、北海道出版企画センター、172-180頁。

2014年7月 熊木俊朗「オホーツク文化の代表的遺跡」菊池徹夫・宇田川洋編『オホーツク海沿岸の遺跡とアイヌ文化』、北海道出版企画センター、181-188頁。

2015年3月 福田正宏・熊木俊朗・國木田大・大貫静夫「トコロ14類土器とトコロ13類土器の再検討」福田正宏編『日本列島北辺域における新石器／縄文化のプロセスに関する考古学的研究 - 湧別市川遺跡の研究-』、東京大学大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻・東京大学大学院人文社会系研究科附属常呂実習施設、132-148頁。

2015年3月 福田正宏・グリシェンコ V. ・ワシレフスキー A. ・大貫静夫・熊木俊朗・國木田大・森先一貴・佐藤宏之・モジャエフ A. ・パシェンツェフ P. ・ペレグドフ A. ・役重みゆき・夏木大吾・高鹿哲大「サハリン新石器時代前期スラブナヤ5遺跡の発掘調査報告」『東京大学考古学研究室研究紀要』第29号、東京大学文学部考古学研究室、121-146頁。

2015年3月 熊木俊朗編『トコロチャシ跡遺跡群 (史跡常呂遺跡) 整備に伴う発掘調査報告書』東京大学大学院人文社会系研究科附属常呂実習施設・北見市教育委員会、226頁。

・口頭発表 (レジメや報告書が印刷されているものはそれを記してある)

2015年1月 KUMAKI, T. About the floor plans and the shed structure of the pit dwellings of Satsumon Culture. “Prehistoric cultural exchange between Sakhalin and Hokkaido”, University Museum of Archaeology and Ethnography, Sakhalin State University.

2015年2月 福田正宏・グリシェンコ,V・ワシレフスキー,A・大貫静夫・佐藤宏之・熊木俊朗・國木田大・ペレグドフ,A・内田和典・森先一貴・役重みゆき・夏木大吾・山下優介「サハリン中部アド・ティモボ遺跡群の考古学的調査(2014年度)」『第16回北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会、35-42頁、東京大学(口頭発表)。

・その他

2014年11月 熊木俊朗「歴史をさかのぼってみよう！」(北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル北見主催講座「トコロヒストリークラブ」プログラム中での講義、北海道北見市)

#### (國木田関連分)

・著書・論文・調査報告等

2014年10月 臼杵勲・國木田大「北海道における縄文時代年代研究と貝塚の年代測定」『日本考古学協会2014年度伊達大会 研究発表資料集』、日本考古学協会2014年度伊達大会実行委員会、233-240頁。

2014年10月 國木田大「縄文クッキーの材料」『太おにぎり展 出土資料からみた穀物の歴史』、横浜市歴史博物館、14頁。

2014年11月 國木田大「土器の発明と縄文クッキーを探る」『歴博』No.187、国立歴史博物館、15-19頁。

2015年3月 福田正宏・グリシェンコ V. ・ワシレフスキー A. ・大貫静夫・熊木俊朗・國木田大・森先一貴・佐藤宏之・モジャエフ A. ・パシェンツェフ P. ・ペレグドフ A. ・役重みゆき・夏木大吾・高鹿哲大「サハリン新石器時代前期スラブナヤ5遺跡の発掘調査報告」『東京大学考古学研究室研究紀要』第29号、東京大学文学部考古学研究室、121-146頁。

2015年3月 設楽博己・佐々木由香・國木田大・米田穰・山崎孔平・大森貴之「福岡県八女市岩崎出土の炭化米」『東京大学考古学研究室研究紀要』第29号、東京大学文学部考古学研究室、147-156頁。

2015年3月 國木田大「湧別市川遺跡の放射性炭素年代測定と炭素・窒素同位体、C/N比分析」福田正宏編『日本列島北辺域における新石器／縄文化のプロセスに関する考古学的研究－湧別市川遺跡の研究－』、東京大学大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻・東京大学大学院人文社会系研究科附属常呂実習施設、78-84頁。

2015年3月 福田正宏・熊木俊朗・國木田大・大貫静夫「トコロ14類土器とトコロ13類土器の再検討」福田正宏編『日本列島北辺域における新石器／縄文化のプロセスに関する考古学的研究－湧別市川遺跡の研究－』、東京大学大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻・東京大学大学院人文社会系研究科附属常呂実習施設、132-148頁。

・口頭発表（レジメや報告書が印刷されているものはそれを記してある）

2014年5月 山崎真治・藤田祐樹・片桐千亜紀・黒住耐二・國木田大・大城逸朗「沖縄県南城市サキタリ洞遺跡の発掘調査（2009□2013年度）」『日本考古学協会第80回総会 発表要旨』日本考古学協会、19-20頁、日本大学（口頭発表）。

2014年10月 白杵勲・國木田大「北海道における縄文時代年代研究と貝塚の年代測定」『日本考古学協会2014年度大会 発表要旨集』日本考古学協会、36-37頁、だて歴史の杜カルチャーセンター（口頭発表）。

2014年11月 山崎真治・國木田大「沖縄先史文化と縄文文化との「遭遇」」『第68回日本人類学会大会 抄録集』日本人類学会、60頁、アクトシティ浜松コンgresセンター（口頭発表）。

2015年1月 FUKUDA M., KUNIKITA D. The Early Jomon settlement of the East Hokkaido -New insights from the fieldworks and the radiocarbon dating- “Prehistoric cultural exchange between Sakhalin and Hokkaido” , University Museum of Archaeology and Ethnography, Sakhalin State University.

2015年1月 國木田大「先史時代における環日本海北部地域の文化交流と社会変容」『公開講演会 先史時代における日本海域交流』、中央大学（口頭発表）。

2015年2月 加藤真二・國木田大・高倉純・森川実・芝康次郎・長沼正樹・尾田識好「華北土器出現期に関する考察」『第16回北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会、31-34頁、東京大学（口頭発表）。

2015年2月 福田正宏・グリシェンコ,V・ワシレフスキー,A・大貫静夫・佐藤宏之・熊木俊朗・國木田大・ペレグドフ,A・内田和典・森先一貴・役重みゆき・夏木大吾・山下優介「サハリン中部アド・ティモボ遺跡群の考古学的調査（2014年度）」『第16回北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会、35-42頁、東京大学（口頭発表）。

## （5）教育普及活動

### ①遺跡発掘体験講座

主催	東京大学大学院人文社会系研究科附属常呂実習施設・北見市教育委員会
開講日時	平成26年8月23日 10:00～12:00
プログラム等	①遺跡の概要説明と見学 大島遺跡群 ②遺跡発掘体験 大島2遺跡
講師	熊木俊朗・山田 哲（北見市教育委員会）
参加者	一般4名・小学生2名（北見市）

### ②第18回文学部公開講座

主催	東京大学文学部・北見市・北見市教育委員会
開講日時	平成26年10月10日（①13:30～14:40、②18:30～21:00）
プログラム等	①常呂高校特別講座（共催：常呂高等学校、会場：常呂高等学校体育館） 「ことばの調査：見えないものを求めて」（講師：林 徹 東京大学大学院人文社会系研究科教授） ②常呂公開講座（会場：常呂町公民館） 第1講「古代ギリシアの動物犠牲」（講師：葛西 康德 東京大学大学院人文社会系研究科教授） 第2講「絵巻の表現技巧」（講師：高岸 輝 東京大学大学院人文社会系研究科准教授）
東大関係出席者：	林 徹・葛西康德・高岸 輝・大貫静夫（人文社会系研究科教授）・熊木俊朗・國木田大・杉村聖治（文学部事務長）・ほか東京大学職員2名

### ③企画展

テーマ	第4回企画展「異文化の接触と融合 -トビニタイ文化」
会期	平成26年11月8日～平成26年12月25日
会場	常呂資料陳列館 3F 企画展示室
協力	北見市教育委員会、常呂町郷土研究同好会
展示概要	10世紀頃の北海道東部において、オホーツク文化が擦文文化の影響を受けて変容し、成立したのが「トビニタイ文化」である。オホーツク文化と擦文文化という、全く異なる二つの先史文化が融合してゆく過程やその背景について、標式遺跡である羅臼町トビニタイ遺跡の考古資料を用いながら解説し、「トビニタイ文化」の研究がアイヌ文化の成立過程を考える上で重要であることを紹介する。

### ④広報活動

常呂実習施設・常呂資料陳列館 Website の更新（随時）<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/tokoro/index.html>  
実習施設紹介パンフレット（2015年1月作成）

### ⑤非常勤講師・委員委嘱等

（熊木関連分）

日本赤十字北海道看護大学 非常勤講師（平成26年4月～9月）  
日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員（平成26年5月～平成28年5月）  
北海道立北方民族博物館研究協力員（平成26年5月～平成30年3月）  
北見市史編集委員会委員（平成24年度～平成29年度）  
北見市史跡整備専門委員（平成27年3月）

北見市文化財審議委員会委員（平成26年3月～平成28年3月）

北見市常呂自治区社会教育推進会議 委員（平成26年度～平成27年度）

北海道立青少年体験活動支援施設ネイバル北見運営協力委員会委員（平成26年10月～平成28年3月）

常呂川流域文化遺産活用推進事業実行委員会 委員長（平成26年度～平成27年度）

## （6）実習施設利用状況

### ①研究者の主な受入状況（前記（3）調査研究活動の項に記載したものは除く）

平成26年4月 ワシレフスキー A.（サハリン国立大学・教授）・グリシェンコ V.（サハリン国立大学・教授）・モジャエフ A.（サハリン国立大学・研究員） ・ペレグドフ A.（サハリン国立大学・研究員）「二国間交流事業による常呂遺跡周辺の考古学調査」

平成26年5月 高橋 健（横浜市歴史博物館・学芸員）「トコロチャシ遺跡資料の分析・研究」

平成26年5月 サイモン ケイナール（イーストアングリア大学日本学センター長・セインズベリー日本芸術研究所考古・文化遺産学センター長）「常呂実習施設・史跡常呂遺跡・白滝遺跡群の視察」

平成26年10月 佐藤由起男（岩手大学教育学部教授）「縄文時代晩期後半～続縄文時代前半の磨製石斧研究」

平成26年10月 岩瀬 彬（首都大学東京大学院人文科学研究科・助教）「吉井沢遺跡の資料調査」

平成26年9月～10月、平成27年2月 夏木大吾（東京大学大学院人文社会系研究科・博士課程）「吉井沢遺跡・トコロチャシ遺跡の資料調査」

### ②学生宿舎稼働状況（実習含む 単位：宿泊者1人あたり宿泊数の和）

4月：0      5月：3      6月：0      7月：126      8月：239

9月：168      10月：3      11月：0      12月：0      1月：0

2月：0      3月：0

合計：539名

### ③北海文化研究常呂資料陳列館入館者数（入館者名簿に基づく人数）

4月：13      5月：85      6月：66      7月：63      8月：86

9月：58      10月：36      11月：11      12月：5      1月：2

2月：0      3月：3

合計：428名

### ④資料貸出等

釧路市立博物館企画展「春採湖・再発見」（平成26年5月2日～6月15日）

釧路市ウライケチャシ跡全景写真 1点

知床博物館移動展「ウトロ市街地の遺跡発掘出土品展」(平成26年7月10日～9月30日、  
会場：知床プリンスホテル)

ウトロ滝上遺跡発掘資料(土器・石器・現場図面・写真)一式

梶田光明『シリーズ「遺跡を学ぶ」098 北方古代文化の邂逅 カリカリウス遺跡』(新泉社、  
平成26年12月刊)

骨塚(網走市最寄貝塚) 写真1点(データ提供)

関口 明・越田賢一郎・坂梨夏代『北海道の古代・中世がわかる本』(亜璃西社、平成27年4月刊)  
網走市最寄貝塚の被葬葬 写真1点(データ提供)

## (7) 組織

### (北海文化研究常呂実習施設)

北海文化研究常呂実習施設長 小佐野重利(兼任 研究科長・学部長)

北海文化研究常呂実習施設運営委員会 委員6名(委員長・副委員長各1名、委員4名)

准教授 熊木俊朗

助教 國木田大

有期雇用職員 2名

### (北海文化研究常呂資料陳列館)

館長 小佐野重利(兼任 研究科長・学部長)

(文責：熊木俊朗)